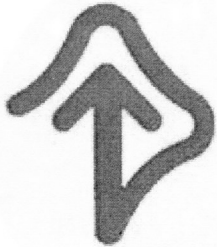


STK

さくらじま



NO. 99

編集者

鹿児島県中途失聴者難聴者協会

事務局 〒899-7301

鹿児島県曾於郡大崎町菱田3511番地

奥吉 順子

FAX 099-477-1561



大隅半島の錦江町より 薩摩半島の開聞岳を望む

鹿児島県は錦江湾を隔てて、薩摩半島と大隅半島から成り立っています。

山川（指宿）と根占（南大隅町）を繋ぐフェリーなんきゅう

垂水（垂水市）と鴨池（鹿児島市）を繋ぐ垂水フェリー

桜島と鹿児島港を繋ぐ桜島フェリー

ポスター配布にて、鹿児島の良さを再認識。おじゃったもんせ、鹿児島へ

平成 29 年度聴覚障害者支援事業

鹿児島県難聴者福祉講演会、終了！！

人の心が聴こえる社会に

難聴者が置き去りにされない

社会を目指して

会長 奥吉順子

去る 2 月 3 日（土）鹿児島県中途失聴者・難聴者協会では、初めての講演会を開催しました。赤い羽根共同募金の助成を頂いて、開催することが出来ました。

県内各地や福岡、熊本、宮崎、大分と遠方から 260 名を超える来場者にお越しいただき成功裏に終えることが出来ました。

初めての講演会でもあり、沢山の人の参加して欲しいと思い、講師に「元筆談ホステス」で一世を風靡した現在東京都北区議会議員の斉藤りえ氏をお招きしました。本当に来て頂けるのか、不安でしたが、「喜んで参ります」とのお返事に、夢が叶ったと感動の瞬間でした。

会員及び、要約筆記グループ、人工内耳鹿児島支部、の方々のご協力のもと、無事に終了しました事、厚くお礼を申し上げます。

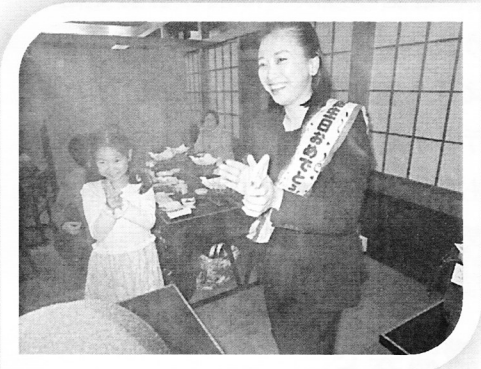
また、大分の難聴協会の会長（元鹿児島の難聴協会）の小倉さんも応援に駆けつけて下さいました。司会も快く引き受けて下さり、大変助かりました。当日は厳寒の中、インフルエンザも大流行中、スタッフも何名かインフルエンザや体調不調の方がでて、大変心配をしましたが、何事もなく参加者の方々にも喜んで頂けたこと、講演会を開催して良かったと思えました。

今回は、難聴者の方、健聴者の方にも、中途失聴・難聴の事、人工内耳の事、要約筆記の事等、知ってもらえたことと思えます。

ポスターを作成し、県内各地に配布しながら、難聴者の存在もアピールする事が出来ました。外観では分からない私たちを見て、びっくりされた方もいました。ポスターも気持ちよく掲示して頂きました。どこの方も笑顔で対応して下さい、頑張ると声援を頂きました。

やっぱり、難聴協会を続けてきて良かったと思えました。「継続は力なり」という言葉はこういう時に、実感としてわかるものです。

沢山の勉強をしながら、講演会を開催することが出来ました。当日の夜は、懇親会とりえさんの誕生日会、そして協会の会員の前畑さんの誕生日会も一緒にお祝いすることが出来ました。難聴協会の良き思い出になりました。



「障害者との共生」訴え

元筆談ホステス・斉藤さん講演



「障害のある人もない人も活躍できる社会を」と訴える会里恵さん（左）と鹿島市市民文化ホール

鹿児島県中途失聴者・難聴者協会の福祉講演会が3日、鹿児島市民文化ホールであった。聴覚障害者としての半生をつづった「筆談ホステス」の著者で東京都北区議の斉藤里恵さん（34）が講師を務め、「障害のある人、ない人がともに活躍できる社会を」と訴えた。斉藤さんは初当選した2015年の区議選について「街頭演説が難しいためにチラシ

を配ろうと思ったが、公職選挙法の規定で禁止されていた。筆談も『広告』にあたる可能性があり、使えなかった」と振り返った。

その上で「障害者は長く介助の対象、健常者に助けられる存在とされてきた。障害者の社会参加を想定していない制度、仕組みはまだまだある」と指摘。「幼稚園から障害のある人と交流する機会があれば、精神面でのバリアフリーはもっと進む」と述べた。

講演会は、難聴協会が啓発活動の一環として初めて企画したもので、約250人が参加した。奥吉順子会長（67）による活動紹介、昨春入会した福元瀬菜さん（22）の体験発表もあった。（三宅太郎）



初めての講演会で体験発表

薩摩川内市 福元（旧姓 坂田） 瀬菜

今年2月に鹿児島市民文化ホールにて講演会が開催されました。また、私は体験発表をすることになっていたのですが、不安と緊張でいっぱいでした。私の番が来たときは緊張感が増してきて「上手く伝わるかな」という不安がありましたが、ゆっくりはつきりと話すことができたのでほっとしました。

ちなみに手話は少しできるのですが、手話通訳者に任せるのは今回が初めてだったような気がします。今まで任せたことがほとんどなく、話がずれて（遅れて）しまわないか心配で手話通訳者が追いつけるように間を置く時間が長くなってしまったという課題が出てきました。

もうひとつは、今年1月に結婚した為、名前が変わったので、資料を作りなおしたのですが、訂正したのを送っていなかった為、要約筆記の方からは前の名前で紹介されていたので、早めに伝えるべきだったという反省点もありました。

講演会が終わったあとは後片付けをし、斉藤りえ氏と記念撮影をしました。

そのあとは近くにある、はいから亭で懇親会を行いました。話をしたりしてあっという間に終わりましたが、楽しく交流できたのもあって楽しかったです。

最後に、短い文章ですが、私は大人数の前で発表するのが初めてで・・・実は人見知りなのもあり、緊張しましたが、いい経験になったと思います。

2月3日 斉藤りえさんの講演会で

伊佐市 前畑 雄也

誕生日の朝、起きてスマホを手にメールを観ると、友達から連絡がきていました。「誕生日おめでとう！そんな日だけど今朝母が亡くなりました」と打たれていました。この日に限って？でもメソメソしてられない。友達の母親は高齢出産なのか？後遺症なのか？聞えも悪くて眼も老眼になっていました。^{ともだち}彼は1人で中学時代から家事をしたり、わからないことは親戚に聞いたりしていました。そんな友達が身近にいて、見たり聞いたりしながら、差別や格差を感じていました。

年月が過ぎてからでしたけど、難聴協会に入会してから、色々な言葉に出会えたような気がします。講演会では、五体不満足だからこそ助けあうことが大事。そして、人との出会いが貴重な一期一会である。共存共栄するその心がけが大切であると。心打たれるお話に、色々な事を強く感じました。

それから、皆様から頂いたプレゼントは、足が冷たい日に心まで温まる誕生日プレゼントでした。ありがとうございました。



斉藤りえさんの講演会にて

大分県 小倉鉄郎

去る2月3日、斉藤りえさんの講演会へ大分県から応援に駆けつけました。

当日の朝5時、大分県の自宅を出発。途中のSAでは、りえさんの娘さんへ「くまモン」のお土産をゲットし11時には無事、会場に到着しました。

思いがけず講演会の司会を担当することになり、びっくりしましたが、古巣である鹿児島県協会のためにひと肌脱ぐことにしました。

講演会は、りえさんを始め、鹿児島の皆さんの発表もとても良かったです。

私の進行のミスで、最後の「閉会の挨拶」を飛ばしてしまい申し訳ありませんでしたが、鹿児島スタッフの皆さんが適切にフォローしてくださり、大過なくお役目を終えることができました。

次は九州ブロック福祉大会開催へ向けて、みんなで一丸となって開催の準備をしていってほしいと心から願っています。

りえさんの娘さんが「くまモン」のお土産を気に入ってくれたことが功を奏したか、2019年には大分県でのりえさん初講演も確約できました。

皆さんも大分県講演の際は、ぜひ、りえさんに会いにお越しください。

講演会の反省会について

肝付町 相星順子

今回の講演会は難聴協会が設立されて、初めての難聴協会主催の講演会だったとの事でした。要約筆記者の方々、難聴協会会員の皆様が一丸となってこのような大きなイベントを成し遂げられた事は、とても立派な事だったと思います。

講演会の後日に行われた反省会では、指摘の発言も多いように思われましたが、又、良い点なども沢山あったと思います。

また、講演会当日は斉藤りえさんの誕生日ともあって、親睦会の席で斉藤りえさんの誕生会も為されたとの事でした。ご本人もとっても感動、感激、感謝されて帰られたとの事でした。非常に嬉しく思いました。

人間一人一人の考え方や見方には、個人差もあり、また伝わり方も受け止め方も十人十色です。

しかし、来年鹿児島で迎える九州ブロック難聴者福祉大会に向けての参考になったのではと思います。難聴協会がますます発展していくために、これからも社会に向けてイベントを実行して行けたら、難聴者の皆さんも社会参加を楽しんで下さるようになるとと思います。

齊藤りえさんの講演会に参加できなかったお詫び

鹿児島市 寺田 安信

会員の皆さん、こんにちは、私は昨年12月から今年の2月までの間に腎結石の手術・入院をしました。手術は無事に済み退院しましたが、その後、体調が悪くなり部屋で寝たきりの生活になり何にもやる気がなくなりました。

小冊子の原稿はやる気がしないまま書いては削除しながら、何回も書きましたがとうとう間に合いませんでした。講演会の当日は胃が痛むやらやる気がないのでこのまま皆さんに顔を出したら失礼だと思い参加しませんでした。すみません。

実は、私には「痔」だと診断されて3ヶ月もの間薬を服用していましたが、2月頃から下痢や胃痛がありおかしいと思いインターネットで調べたところこの薬は1週間をめどにして下さいとありました。ええっ、1週間を3ヶ月も使っていたのか、これは大変だと私個人の判断ですぐに止めました。「痔」の薬を止めたら、すぐに下痢は止まるやら胃の不調も無くなりました。今では、食欲も出て食べるのが楽しくなりました。体重も3kg増えました。このことで「痔」の薬を飲ませてくれた医者に文句を言いたいと思いました。が、私「痔」では無かったです」医者「イヤ！痔ですよ」との問答の繰り返しでケンカになるのが頭の中で見えてきました。これは紳士的な方法ではないと考えた私は柔らかに「先生もう一度検査をして頂けないでしょうか」と診察してもらうことに決めました。

皆さんは、長く座っている時お尻が痛くなることはありませんか？このことで医者から「痔」だと言われたら注意して下さいね。長く座っていてお尻が痛くなることは当たり前のことではありませんか。

体調が良くなった今、これまでと変わらぬお付き合いの程、宜しく願いいたします。

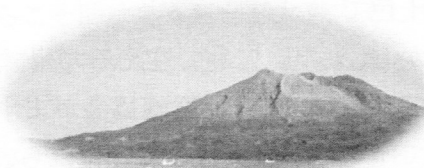
会報「さくらじま」100号原稿募集

会報「さくらじま」は次回100号を迎えます。

原稿締切：7月20日（金）

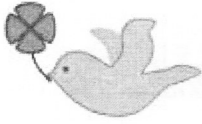
発行：7月30日（月）

皆様の日々の気づき、感動した話等、
宜しく願いいたします。



☆斉藤りえ氏 講演会 アンケートのご感想より☆

- ◇ 障がいには個性！環境次第で活躍できる！という事に心を打たれました。
- ◇ 人の心が聴こえる社会のお手伝いが出来ればと思った。
- ◇ 難聴者・中途失聴者の方々の事がよく理解出来ました。
- ◇ 人工内耳の装用者の体験も素晴らしいでした。
- ◇ 斉藤りえさんのお話が聞いてうれしかったです。障がい者の議員のご苦労がよく分かりました。私もこれから障がいを持つ方々と健常者が共に生きられる社会を目指し、頑張っていきたいと強く思いました。
- ◇ 先天性・中途失聴での障がいの違いの話。まわりの環境に恵まれていた、斉藤さん、地域格差があることもよく分かりました。
- ◇ 自分は普段生活している中で、色々な情報を普通に手に入れることが出来ているので、障がいのある方々の言葉を目のあたりにし、考えさせられました。
- ◇ **障がいを持っている人の生活がスムーズになされるようにではなく、障がいを持っている人も活躍できる社会になるように、と言われた斉藤さんの言葉がとても心に響きました。**
- ◇ 障がいを考えることは、人として生きる大切な事に気付く事だと思いました。組織の事や仕組みの事も理解出来ました。登壇されたお一人お一人のお話が強く胸を打ちました。
- ◇ 難聴者には、手話と単純に考えていましたが、誤解していました。又手話と日本語は文化が違う事も理解していなかった。もっと歴史・文化の学習も深め、心を読みとる努力が必要と感じた。
- ◇ とすれば、聴覚障害をお持ちの方は手話と思いがちでしたが、要約筆記の重要性を認識することが出来ました。
- ◇ 今、手話を学んでいていつかは、聴覚障害者のため、ボランティアをしたいと思っています。健常者には分からないことを、今日はいくつも知ることができ、参加して良かったです。
- ◇ 要約筆記の必要性は、手話と同じくらい大切なものなのに、社会の一般的な目は、まだ理解できていないのだなと感じました。
- ◇ 私達健聴者が聴覚障がいがどういうものなのか、色々な観点から考える良い機会になった講演会でした。
- ◇ 鹿児島にも若い会員が増えて (福元さんのような) 頼もしいです。鹿児島でも障がい者の政治への参加が成功して欲しい。



断 捨 離

要約筆記サークルやまびこ：後藤 美智子

先日の要約筆記サークルやまびこ総会で、役員改選がありました。
会長の私は続行ですが、副会長 2 名、会計が交代しました。
今後ともよろしくお願いします。

さて、最近の私は、筈ほりにも飽きて、目下、断捨離作業中です。
テレビ等で、年寄りのゴミ屋敷のすさまじさを見るにつけ、他人事ではないと自戒。
とは言うものの春休みに帰省した娘が不要と捨てた衣類の袋から、「えっ、これも
捨てるの？これは、高かったのに、何回も着てないよ、やせたら着るよ」と取り出
す私。

断捨離の一番の敵は母親ですって、と叫ぶ娘。

でも、この度、布団 3 枚捨てた。重い毛布も捨てる気になっていたのに、夫が被ら
ず、敷けばよいと、押し入れに戻す。

断捨離の敵は夫も？

年末年始に帰省する子ども達のために 8 組の冬布団は要る。古い敷布団を打ち直し
てと思ったが、最近は打ち直しが生協のカタログに載らなくなっている。買った方
が安い。打ち直して死語かも。

手話講座のしりとりで誰かがアベックと言ったら、今は、カップルいえツーショッ
トですよ。アベックも死語？でも高齢の難聴者が わ でワッフルと言った。

新しい言葉もどンドン覚えなくては。

手話だって、国際宇宙ステーションとか新しいのが増えてるそうだから。

平成 30 年度 手話を学ぼう

開 講 日：平成 30 年 5 月～平成 31 年 2 月 (月 1 回 第 3 水曜日) 8 月、3 月休
(5 月 16 日、6 月 20 日、7 月 18 日、9 月 19 日、10 月 17 日、
11 月 21 日、12 月 19 日、1 月 16 日、2 月 20 日)

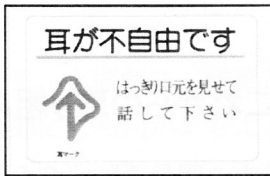
時 間：午後 1 時半～3 時半まで 定員 15 名程度 受講料：無料

応 募 締 切：平成 30 年 5 月 11 日 (金) 消印有効 往復ハガキ、FAX、メールで可

問 合 せ 先・申 込 先 〒890-0021 鹿児島市小野 1 丁目 1 番 1 号

鹿児島県視聴覚情報センター (ハートピアかごしま 3 階)

今年も難聴者・中途失聴者向け「手話を学ぼう」が開催されます。手話だけでなく、
色々な情報も提供して頂けて、皆で楽しく学ぶことができます。



耳マークカード活用

霧島市 種子田 成美

耳マークカードを知ったのは、県難聴協に入会した後でした。活用したくてネットで探して購入しました。早速提示すると、驚くほどに笑顔で書いて下さったり手振りでしてくださったり。この耳マークカードって、水戸黄門の印ろう??力があるなあ～と100倍感動しました。

私は生後3ヶ月麻疹で聴力が無くなったので、言葉の発音がきれいではないのです。「言葉がおかしい」「発音がヘン?」「外国人」「つんぼちゃん」とクラスメートにいじめられ、言葉の発音がコンプレックスでした。

言葉教室で発音の訓練をした経験がありますが、「なるみちゃんの言葉が分からない」と未だに多く言われます。

実は私の父（健聴）も私の言葉が分からない……。幼い頃から父娘の会話が出来なかったのですが、今は実家に帰ると年老いた父（80歳）と少しずつですが、筆談で会話しています。耳マークカードは多くの出会いがあります。私にとっては、無くてはならない一生のカードです。奥吉さんの言葉「カードは私の耳の良きパートナー」素敵な言葉です。



平成30年度総会のお知らせ

日時：平成30年5月13日（日）10時～13時

場所：ハートピアかごしま3F研修室1

- 議題：①平成29年度 活動報告
②平成29年度 会計報告
③会計監査報告
④平成30年度活動計画案
⑤平成30年度会計予算案
⑥九州ブロック難聴者福祉大会について
⑦役員について
⑧その他



難聴者協会入会にあたって、過去・現在・そしてこれからの取り組み

鹿児島市 園田雅隆（60歳）

注）精神・肉体年齢40歳と自認

（1）入会の動機

毎週土曜日にハートピアで行っているフライングディスク練習会で、種子田成美さんと出会い、難聴者の会入会を勧められたのがきっかけ。私は、生まれつきの難聴者（6級）補聴器両耳着用で、現在鹿児島大学勤務中。現在手話の勉強中でもあり、いずれは手話を通じて、聴覚障害者と健聴者の橋渡しや聴覚障害者の自立の出助けができればいいなと考えている矢先のタイミングでした。

（2）暗中模索の時代

学生時代は難聴であることが負い目であり、ストレスの多い人とのコミュニケーションは特に苦手だった。

社会人になってからも仕事上の電話対応は特に難しく、また職場の空気も読めず、与えられた仕事に充実感を覚えることもなく、コミュニケーション障害ゆえに、いろいろと職を変わり、将来に希望は見出せない毎日で、なんで生まれてきたのかと自己嫌悪や親を恨んでみたりと、今思えばどうしようもない全くの後ろ向き人生だった。

そんな中、自分を根本から覆す言葉と出会った。

（3）私を変えた言葉

「難聴は不幸ではない、不便なだけだ。もし本当に不幸なことがあるとしたら、不便さを不幸と取り違えている、己の心の持ち方そのものが不幸なのだ」

正確には、難聴という言葉は障害と述べられていたかもしれないし、誰が言ったかも、いまとなっては記憶は定かではない。いずれにせよ自分のこれまでの思い、生き方をずばり指摘されたようで衝撃だった。

「自分の心のあり方に問題があった訳か・・・」

それ以来、不便さにどう対処していくか？自分の進むべき指針がはじめて示され、将来に向け自分の生き方を変えていこうという大きな転機となった。遅ればせながら、今からおよそ20数年前のことである。

（4）それからの取り組み、心がけたこと。

まずは、聴覚障害者であるという現実（一般の人には、「見えない障害」といわれる）にどう対処するかである。隠しようもないこの事実を思い切って、初対面の人に両耳装着の補聴器をはずして見せながら、まず最初に開示しようと心がけた。するとどうだろう、自分を取り巻く周囲のいろいろなことが変わってきた。一番の収穫は、私自身がそれまで抱えていた聞こえの悪さに起因するストレスから開放されたということ

である、と同時に、難聴というコミュニケーション障害を抱えつつもいろんなことに積極的に立ち向かえるようになり、自分の生き方も前向きになったのである。

もうひとつ発見があった。自分が思うほど他人は、私の難聴にさほど関心は持っていないという事実である。ならば遠慮は要らぬとばかり、救急法指導員や消防団、盲人ランナー伴走、障害者スポーツ指導員、手話と自分を変えようと手当たり次第にチャレンジ。成果を挙げるべくそれぞれの技能向上に努め今日に至っています。

仕事の上でも、コンピュータ関連の資格取得に奮闘努力中。健聴者に負けるものかと頑張っています。特に自分はずば抜けて頭がいいとは思いませんが、一を知るためには十回繰り返せば大概のことは何とかなると楽観的に捉え、かつ確信しています。ボランティア活動をしていると週末が来るのが特に楽しみです。「あなたを見てるとこちらでも元気になります」と言ってもらえるのがなによりうれしいです。

（5）2020年に向けての取り組み

御存知のように2020年には、東京オリンピックがあり、当地鹿児島でも国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会が開催されます。目下、盲人ランナー伴走とフライングディスク競技、この2つのボランティア活動を来る2020年に成功させるべく取り組んでいます。競技技能、審判技能の向上やサポート体制の充実化など課題は多いですが、皆と協力して是非成功させたいと願っています。基本的に体力勝負の面もあるので、運動・栄養・休養に気配りし、年齢と相談しつつ（？）前向きに楽しんでいきたいと考えています。なにはともあれ、まだあと20年は頑張るつもり！！

（6）安心・安全への取り組み

最近では火山活動や地震など、防災に対するニュースや意識がかつてないほど身近なものとなって来ています。そんな中で、災害弱者といわれる高齢者・障害者への対応も早急に取り組むべ喫緊の課題となっています。消防団員・防災士として、街の安心安全はわれわれが守るという意気込みで、このような課題にもライフワークとして取り組んでいます。

（7）難聴者協会への関わり

今、難聴者協会では、来年2月講演会成功に向けての意気込みが高まっています。また2年後の鹿児島大会も成功させようという意識も垣間見ることが出来ます。具体的な目標に向かって皆で力を合わせるということは素晴らしいことだと思います。実現へのプロセスを楽しみつつ、元気を与え、元気をもらい、皆と協力しながら、自分もその一翼を担えればと思っています。

皆さんよろしくおねがいします。

平成29年11月吉日

この原稿は一月号に掲載の予定でしたが、講演会の為の小冊子を発行したので春号に掲載いたしました。ご了承下さいませ



全難聴便り

国会中継字幕付与

発行：事務局 〒162-0066
東京都新宿区市谷台町 14-5
MS ビル市ヶ谷台 1 F
編集：全難聴事務局
電話：03(3225)5600
FAX：03(3354)0046
URL：<https://www.zennancho.or.jp>
E-Mail：zennancho@zennancho.or.jp

要望行動をおこないました。



3月15日、公明党の「バリアフリー法及び関連施策の在り方プロジェクトチーム」の要望書提出に同行し、菅官房長官、山本参議院議院運営委員長に国会中継字幕付与要望行動を行いました。ろうあ連盟からは石野理事長が参加しました。菅官房長官は、各党派の意見を集約してほしい、それを受けて政府としても取り組みたいというコメントがありました。

👉 **障害者雇用納付金に係る介助者委嘱助成金に要約筆記者を正式決定！**

障害者雇用納付金に係る介助者委嘱助成金、4月1日より要約筆記者に拡大が正式決定

障害者雇用納付金に係る介助者委嘱助成金の要約筆記者への拡大が4月1日よりの施行となります。今回の省令改正は以下の通りです。

- ①介助者委嘱助成金対象に要約筆記を含める
- ②対象者は従来の3級から6級にまで拡大
- ③職場での障害者相談窓口担当者の配置助成金を新設

今回の改正内容は厚労省はHPでの周知と共に、企業関係者を集めた会合でもPRされます。

なお、全難聴便りでは、下記の各号紙上で関係記事を掲載していますので改めてご参考にされるよう願います。

・117号(2018.2) 「3/9 締切 厚生労働省『障害者雇用助成金』で要約筆記者派遣

パブリックコメントの募集中 協力を！！

・115号(2017.12) 「障害者雇用介助者委嘱助成金の改定」

⇨ 3/13(火) コミュニケーション4団体連絡会

3月13日（火）、コミュニケーション4団体（日盲連、全日ろう連、全国盲ろう者協会、全難聴）連絡会が開催され、新谷理事長、佐野事務局長が出席しました。

概要、以下の通りです。

1. 各団体報告

（ろうあ連盟）

- ・12月の国連総会で9月23日を手話言語国際デーとすることが採択。（盲ろう者協会）

- ・盲ろう通訳者の身体疲労について、派遣事業体に対して実態調査を実施中。来年度から同行援護事業は報酬加算になる。

（日盲連）

- ・視覚障害の身体障害者福祉法での認定方法が変更。良いほうの目が基準となる。

- ・外出時の安全性（点字ブロック、誘導システムの安全性など）の検討を開始する。

（全難聴）

- ・障害者雇用促進法での介助者委嘱助成金の対象範囲の拡大について各団体の支援に感謝。

2. 強制不妊の問題

- ・ろうあ連盟、日盲連では団体内の実態調査を始める。

- ・優生保護法の不備を放置した国の責任を問う形の、国家賠償を求める訴訟になる。

3. 障害者差別解消法の3年後見直しについて

- ・今期、障害者政策委員会の委員改選が行われる。

- ・このタイミングをつかんで、4団体の名前で障害者差別解消法の見直しを求める要望書を出したい。

- ・具体的な要望内容、要望書提出タイミングは、竹下日盲連会長が障害者政策委員会の石川委員長と協議する。

⇨ 第13回全難聴中国四国ブロック青年交流会が香川県高松市で開催

第13回全難聴中国四国ブロック青年部交流会が香川県高松市で行われました。県内外からの参加者は17名。第1日目は讃岐伝統の手作り和菓子の「和三盆」作りに挑戦。

2日目は「笑いヨガ」と「ボッチャ」、「フライングディスク」を使ったスポーツ交流会でした。香川でブロック青年部交流会を開催するのは十数年ぶりで、当時は20代が中心の青年部のメンバーたちが今では平均40代の壮年になりました。童心に帰って汗をかき、笑った2日間となりました。



事務局 便り



☆ご寄付を頂きました☆ご厚情に感謝します。

山口あさ子様 新吉カヨ子様

☆講演会協賛、ご寄付 ご厚情に感謝します。

(医療法人) 清風会清田耳鼻咽喉科様 下田代補聴器センター様
福留メガネ様 匿名様

☆新会員のお知らせ☆

下村和夫様 中村絵里香様

心から歓迎いたします。宜しく願いいたします

☆行事報告（平成29年11月～平成30年4月）☆

月	日	内 容	場 所	参加人数
11	4-6	全国難聴者福祉大会 i n 東京	東京	5名 (要約1)
11	11	定例会・役員会	ハートピア	14名
12	3	合同忘年会	ワシントンホテル	23名
12	9	講演会実行委員会	ハートピア	15名
1	7	実行委員会・会場下見	市民文化ホール	19名
1	14	定例会	ハートピア	16名
1	21	講演会実行委員会	ハートピア	17名
1	31	講演会実行委員会	ハートピア	16名
2	3	斉藤りえ氏講演会	市民文化ホール	総260名
	3	斉藤りえ氏懇親会	ハイカラ亭	22名
2	24	講演会の会計監査（午前）	ハートピア	6名
	24	講演会の反省会（午後）	ハートピア	19名
2	28	九州ブロックの相談	県庁	8名
3	24	勉強会・相談会	ハートピア	10名
4	21	役員会	ハートピア	10名
4	23	ドコモハーティ講座	ハートピア多目的	9名

☆これからの活動計画☆（平成30年度）

期 日	内 容 時 間 等	場 所	担 当
5月13日	総会 10:00~13:00	ハートピア	奥吉
5月27日	九州ブロック大会 準備開始	ハートピア	〃
6月2日	スポーツ交流会	〃	有野・園田
6月18日	定例会他	〃	奥吉
7月9日	定例会他	〃	〃
7月14・15日	九州ブロックリーダー研修会	大分	小倉
9月10日	定例会他	ハートピア	奥吉、種子田
10月15日	料理教室（午前）定例会（午後）	〃	梶丸
11月24日～ 26日	全国難聴者福祉大会 in 山口	山口県	

上記の計画は、決定の分だけ書いてあります。その他総会において、年間計画を立てていきたいと思えます。



編 集 後 記



鹿児島では、明治維新150周年記念として、色々なイベントが盛んに行われています。その一つである木下大サーカスを、孫たちと一緒にイオンモール鹿児島特設会場で楽しむことができました。なんとといっても、目だけで楽しめるので、私はサーカスが大好きです。また、NHK大河ドラマも「西郷どん」が始まって、ハラハラドキドキしながら、毎回見えています。字幕のお蔭で大河ドラマが見られるようになって幸せです。そして、日本の歴史を知ることが出来ました。自由で豊かな今の日本は、過去の偉人たちが命を懸けて築き上げたものだということが、痛いほど伝わってきます。私たちが聞こえなくても、いつでもどこでも、文字情報の溢れる優しい社会になるように、難聴者のことを伝えていきましょう。 奥吉

発行所：鹿児島心身障害者団体定期刊行物協会

発行人：〒892-0875

鹿児島市川上町680-3 コーポラティブセンターあゆみ内

電話・FAX 099(244)4624

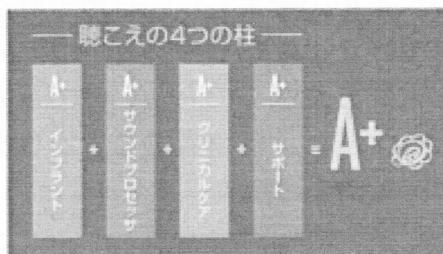
定 価：1部 100円 但し 会員の購読料については会費に含む



コクレアの人工内耳は、「A+の聴こえ」を提供します

常にお客さまに「ベスト」な選択をしていただきたいという思いをこめて、コクレアは、「A+の聴こえ」というメッセージを発信しています。Aグレードより上の花マルのように、コクレアが「ベスト」であるというメッセージです。

A+の聴こえは4つの柱が揃って初めて実現されます。この4つの柱は、グローバルマーケットリーダーであるコクレアが、長い年月をかけて築きました。私たちは約40年前に世界初の人工内耳システムを開発して以来、45万人もの装用者の皆さまの経験に基づいて製品やサービスの改善を続けています。



株式会社日本コクレア

〒113-0033 東京都文京区本郷2-3-7 お茶の水元町ビル
お問い合わせはカスタマーサービスまで
www.cochlear.com/jp
Tel: 03-3817-0243 Fax: 03-3817-0245
メール: jpcustomerservice@cochlear.com

成人用



小児用



◀ 聴覚についての情報は

Cochlear. Hear now. And always. | 株式会社日本コクレア | Cochlear Limited 商標または登録商標です。 | Japanese translation of 566445/0110CT14

Hear now. And always

